



Domestication of Pigs in the Jomon Period

## 西本豊弘

### はじめに

- ① 縄文ブタの議論
- ② 下太田貝塚のイノシシ
- ③ 縄文時代のイノシシ家畜化の検討
- ④ 結論



これまで、一般的に縄文時代の家畜はイヌのみであり、ブタなどの家畜はいないと言われてきた。しかし、イノシシ形土製品やイノシシの埋葬、離島でのイノシシ出土例から縄文時代のイノシシ飼育が議論されてきた。イノシシ飼育の主張でもっとも大きな問題点は、縄文時代のイノシシ骨に家畜化現象が見られなかったことである。ところが縄文時代のイノシシ骨の中にも家畜化現象と疑われる例があることが分かった。また、イノシシがヒトやイヌと共に埋葬されている例が知られるようになり、改めてイノシシについてヒトやイヌとの共通性を議論する必要が出てきた。

そこで、本論では千葉県茂原市下太田貝塚出土資料を紹介とともに、イノシシ形土製品・イノシシ埋葬・離島のイノシシ・骨格の家畜化現象の4項目について再検討した。その結果、文化的要素からみれば、縄文時代中期以降にブタが飼育されていたことはほぼ確実である。また、離島への持ち込みという文化的項目と骨格の家畜化現象の点から見ると、縄文前期からすでにブタが飼育されていた可能性が大きいことが分かった。しかし、縄文時代のブタは、骨格的変化が小さいことから、野生イノシシと家畜のブタが交雑可能な程度のかなり粗放的な飼育であったと推測された。ブタの存在がほぼ確実になったことは、縄文時代が単純な狩猟・漁労・採集経済ではなく、イヌとブタを飼育し、ある程度の栽培植物を利用する新石器文化であったことを意味するものである。